

本校生徒の学習及び家庭学習時間等の状況について

～平成28年度北海道高等学校学習状況等調査結果より～

1 調査の概要

- (1) 調査の名称：平成28年度北海道高等学校学習状況等調査
- (2) 調査の実施：平成29年2月～3月（本校：3月10日）
- (2) 調査の対象：平成28年度1年生 全道234校 28,752名（本校：178名）

2 調査結果の概要

(1) 入学前との意欲の変化

- ・「学習意欲が高まった」、「学校の授業以外で学習する時間が増えた」生徒の割合は、それぞれ67.5%、59.0%で全道平均（67.2%、57.6%）を若干上回った。また、「卒業後の進路について真剣に考えるようになった生徒の割合は、98.2%で全道平均（92.5%）を若干上回った。さらに、「諸外国の人々と交流したり異なる文化や生活習慣などを知ろうとする意欲が高まった」生徒の割合は47.0%で全道平均（44.7%）を若干上回った。
- ・昨年度との比較では、「卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった」生徒の割合が若干増加しているが、その他の項目は低下している。特に、「学習意欲が高まった」「学校の授業以外で学習する時間が増えた」生徒の割合は大幅に低下している。（それぞれ-15.6ポイント、-12.0ポイント）

(2) 各教科の状況

- ・各教科の「勉強が好き」な生徒の割合は、全道平均と比較して「国語」、「英語」、「専門」で上回り、「理科」で同程度、「数学」、「地歴公民」で下回っている。特に「国語」、「専門」は大幅に全道平均を上回っており、「地歴公民」は大幅に全道平均を下回っていた。
- ・各教科の「授業がよくわかる」生徒の割合は、全道平均と比較して「国語」、「英語」、「理科」「専門」で上回り、「数学」で同程度、「地歴公民」では下回っており、特に「地歴公民」で大幅に下回っている。
- ・昨年度調査との比較では、各教科の「勉強が好き」な生徒の割合は、「英語」「理科」以外の教科で上回っている。また、「授業がよくわかる」生徒の割合について「理科」で大きく上回っており、「英語」では同程度、「国語」、「数学」「地歴公民」「専門」で下回っている。特に「地歴公民」で大幅に下回っている。

(3) 平日の家庭学習時間及び読書時間

- ・平日に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、27.1%であり、全道平均（32.1%）を下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が増加している。（+8.2ポイント）
- ・平日の読書時間について、「まったく、ほとんどしない」、及び「10分未満」の生徒の割合は52.4%であり、全道平均（64.2%）を大幅に下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合は大幅に低下している。（-11.8ポイント）

(4) 休日の家庭学習時間

- ・休日（長期休業以外）に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、36.7%であり、全道平均（43.1%）を下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が増加している。（+8.7ポイント）
- ・長期休業期間に1日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、49.4%であり、全道平均（52.3%）を若干下回っている。また、昨年度との比較では、「まったく、ほとんどしない」生徒の割合が若干増加している。（+2.3ポイント）

(5) インターネットの利用について

- ・平日に1日3時間以上インターネットを利用している生徒の割合は、69.9%で全道平

平成 28 年度北海道高等学校学習状況調査における本校生徒の学習及び家庭学習時間等の状況について別紙資料

均（48.5%）を大幅に上回っている。

- ・主にインターネットで利用するものについては、「SNS」、「通話アプリ」、「動画等」が多く、この3つは全て50%を上回っている。

3 課題及び改善に向けた方策

- （1）高校入学前に比べて学習に対する意欲は概ね高くなっている状況にあり、進路目標を明確にさせる中で学習に対する意欲を一層高め、自主的に学ぶ態度を育成する指導の充実を図る。
- （2）各教科の学習において、授業内容を理解している生徒の割合が低い教科について、指導内容や生徒の理解の状況を改めて分析し、個に応じた指導の充実など指導方法の改善を図る。
- （3）家庭学習時間について「まったくしない」生徒の割合が増加していることや、インターネットを利用する時間が長い生徒の割合が多いことから、家庭との連携を深め、家庭学習を促進する指導方法の工夫・改善を図るとともに、インターネットの利用等情報通信機器の適切な使用に係る指導の充実を図る。